

JTAG コネクタ (14ピンタイプ)

JTAG 機能を使ったデバッグを行う場合は、ターゲットボード上に JTAG ケーブルを接続するための回路やコネクタが必要になります。14 ピンタイプの JTAG コネクタは、AUD 機能を使ったリアルタイムトレースはサポートしていません。

以下の図を参考にしてターゲット上に回路を用意しておいてください。また、必ずご使用の CPU のユーザーズマニュアルもあわせてご確認ください。

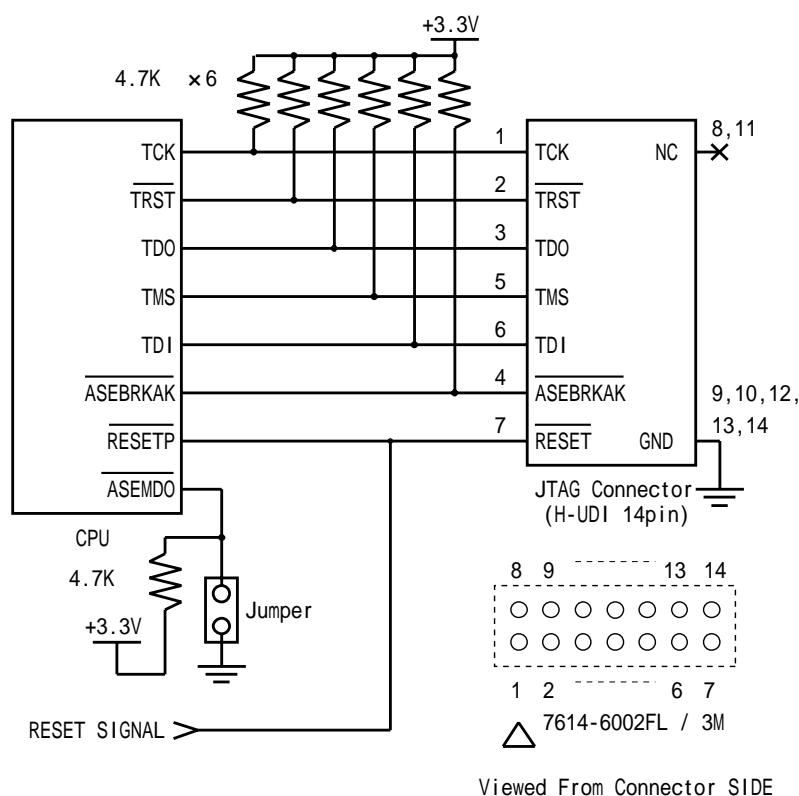


図 2-12 JTAG 接続コネクタ推奨回路例 (14 ピンタイプ)

- 注 1. パターン長はできるだけ短くしてください。(パターン長は 100mm を超えないようにしてください)
- 注 2. JTAG モードでデバッグする場合には、ジャンパプラグ (JP) をショートします。
JTAG デバッガを使用しない場合は、ジャンパプラグ (JP) はオープンにします。
- 注 3. JTAG コネクタ実装時、周囲 3mm 四方に他の部品を配置しないでください。
- 注 4. 各信号は、CPU から JTAG コネクタに直接配線してください。
- 注 5. TCK の周波数は CPU のコアクロックの 1/2 より低くなるように設定してください。
- 注 6. 11 番ピン (NC ピン) は未接続または電源に接続してください。
- 注 7. ASEMDE0 端子は jumper を接続する代わりに 9 ピンに接続すると、デバッガ接続時に自動的にデバッグモードにすることが可能です。